

# 意見交換資料

ENEOS(株)大分製油所	…	P1
住友化学(株)大分工場	…	P2
王子マテリア(株)大分工場	…	P4
大分大学	…	P6



# ENEOS カーボンニュートラルに向けた取り組み

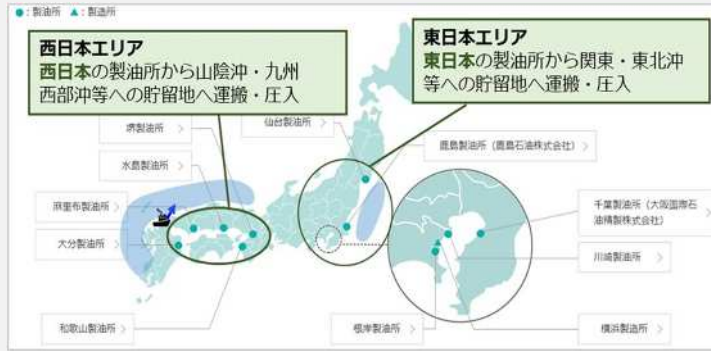
## CCS (CO2の回収・貯留)

## 2030年度からの国内CCS開始を目指す

### 国内CCS実現に向けたENEOSの取り組み

- 電源開発・ENEOS・JX石油開発の3社共同で、西日本におけるCO2の貯留検討を目的とした西日本カーボン貯留調査を設立 (2023年2月)

- CO2貯留に必要な海洋掘削技術を保有する日本海洋掘削の株式を取得 (2023年3月)



## CO2フリー水素サプライチェーンの構築

- 経済性を有する海外CO2フリー水素源の確保を目指し、豪州・東南アジア・中東の現地企業と協業中。
- 製油所等の当社アセットを活用し、コンビナートでの水素受入・供給拠点整備を検討中。
- 国内の再エネ主力電源化に伴い、余剰再エネ資源を活用した国産CO2フリー水素源の確保も、エネルギーセキュリティの観点から重要。



## 自然吸収の増加

## 森林吸収など自然吸収系のクレジット創出を推進

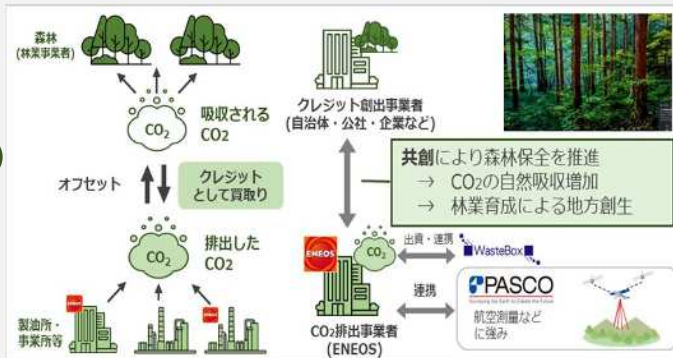
### 海外森林吸収における取り組み

- 住友林業グループが組成する国内企業による海外大型ファンドへの出資を決定 (2023年5月)

### 国内森林吸収における取り組み

- 愛媛県久万高原町に続き、新潟県農林公社とJ-クレジット創出に合意 (2022年11月)

- パスコとJ-クレジット創出支援に関する共同検討を開始 (2023年5月)



## SAF安定供給への取り組み

- TotalEnergiesとのSAF製造に関する事業化可能性調査を実施
- 野村事務所と、日本各地から廃食油を安定的に調達する仕組みの構築を目指す



ENEOSホールディングス株式会社

Copyright © ENEOS Holdings, Inc., ENEOS Corporation All Rights Reserved.

## 第4回「グリーン・コンビナートおおいた」推進会議

### 1. 化学業界 カーボンニュートラル実現に向けた現状と取組

2023/3/17 日化協リリース

日本化学業界の2030年度目標は『2013年度を基準として32%減の2,000万t-CO<sub>2</sub>を削減』

#### ◆化学産業におけるカーボンニュートラルに向けて重要となる対応

『化学業界における地球温暖化対策の取り組み』  
2023/1/26 日化協 資料より

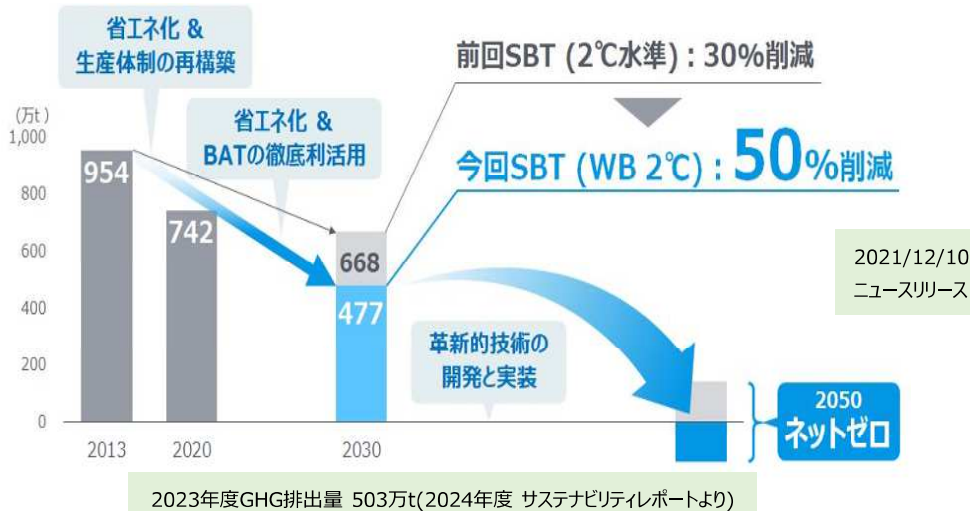
- ・原料を化石原料から地表にある炭素源の循環に転換すること
- ・製造時に使用するエネルギーをカーボンニュートラル燃料へ転換してCO<sub>2</sub>排出量を減らすこと

#### ◆CO<sub>2</sub>を削減する新たな原料プロセスへの大型投資を進めつつ国際競争力の維持・強化を迫及する

### 2. 住友化学グループのカーボンニュートラルに向けたグランドデザイン

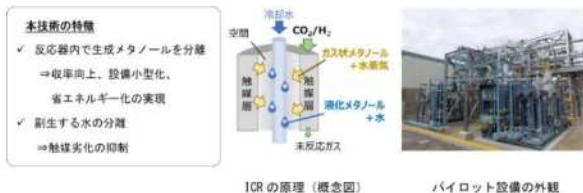
- (1) 当社グループのGHG排出量をゼロに近づける「責務」
- (2) 当社グループの製品・技術を通じた世界のGHG削減への「貢献」

#### 【責務】



#### 【貢献】

CCUパイロット設備(愛媛) ～CO<sub>2</sub>からメタノール製造～  
2023/12/12 ニュースリリース

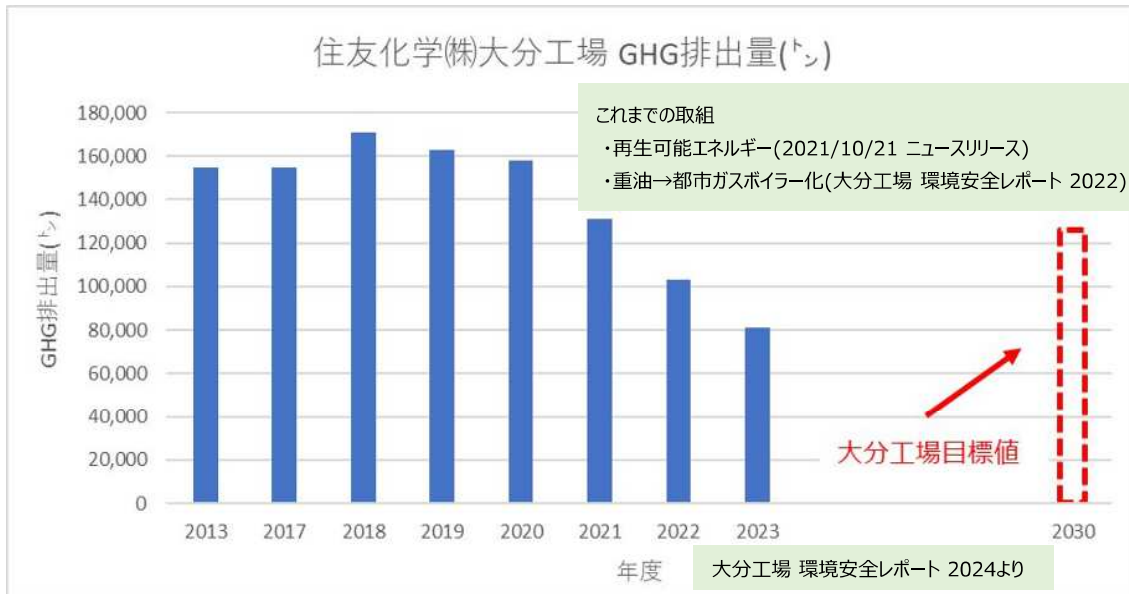


組織改正(事業部門の再編)  
環境負荷低減型事業モデルへの転換を促進するため、エッセンシャル&グリーンマテリアルズ部門を設置  
2024/9/2 ニュースリリース



「Innovation Center MEGURU」(千葉)  
2024/6/27 ニュースリリース

### 3. 大分工場のカーボンニュートラルに向けた取り組み



大分工場 カーボンニュートラルに向けて

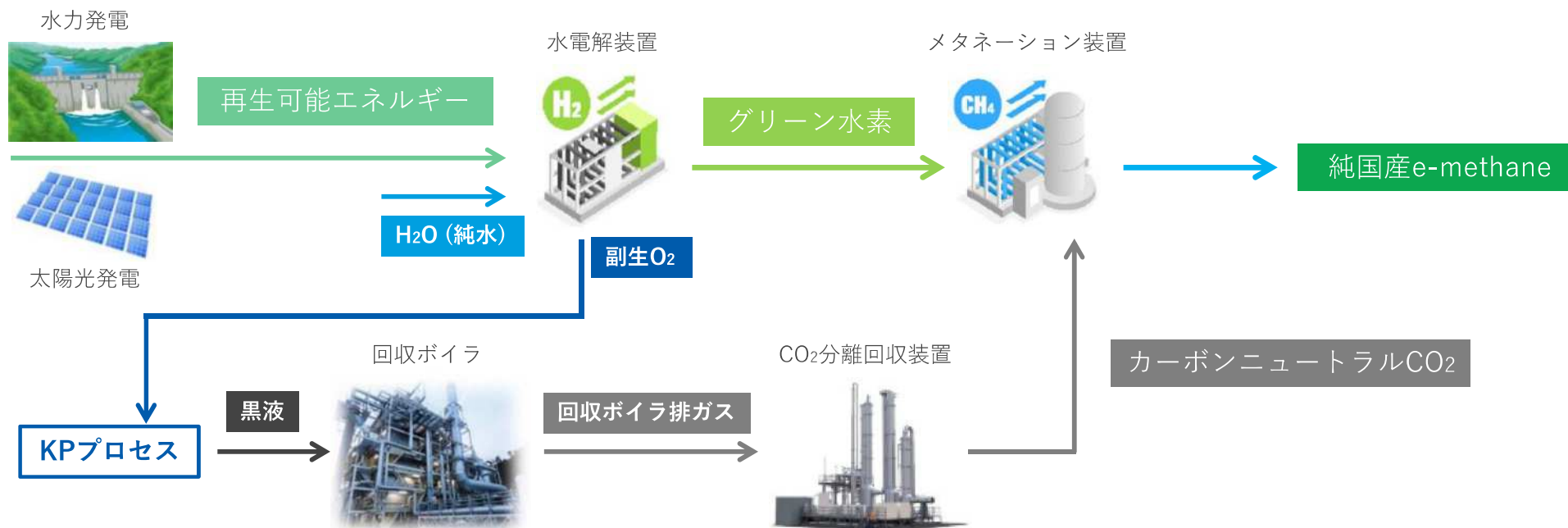


以上

## ⑥GXへの取り組み

### 再生可能エネルギー由来純国産e-methane製造事業のアライアンス締結

王子ホールディングス・王子製紙・東京ガス・TGES4社により、王子製紙苫小牧工場が保有する水力発電由来グリーンH<sub>2</sub>ならびに黒液回収ボイラ由来のカーボンニュートラルCO<sub>2</sub>を用いたe-methane製造事業のアライアンス締結





03. トピックス【木質バイオビジネス】

## ⑥GXへの取り組み

### 石炭専焼ボイラからの燃料転換

- 2030年度までに国内の石炭専焼ボイラを廃止し、**ガス(都市ガス/LNG)への燃料転換**を推進中
- 2027年度のガスタービン運転開始を目指し、先行して**王子マテリア祖父江工場、佐賀工場**にて燃転プロジェクト本格始動
- 2028年度のガスタービン運転開始を目指し、**王子マテリア釧路工場**も計画中



#### 王子マテリア 祖父江工場

運開時期 : 2027年度  
 GHG削減量 : 160千tCO<sub>2</sub>/年  
 (2018年度対比)



#### 王子マテリア 佐賀工場

運開時期 : 2027年度  
 GHG削減量 : 146千tCO<sub>2</sub>/年  
 (2018年度対比)



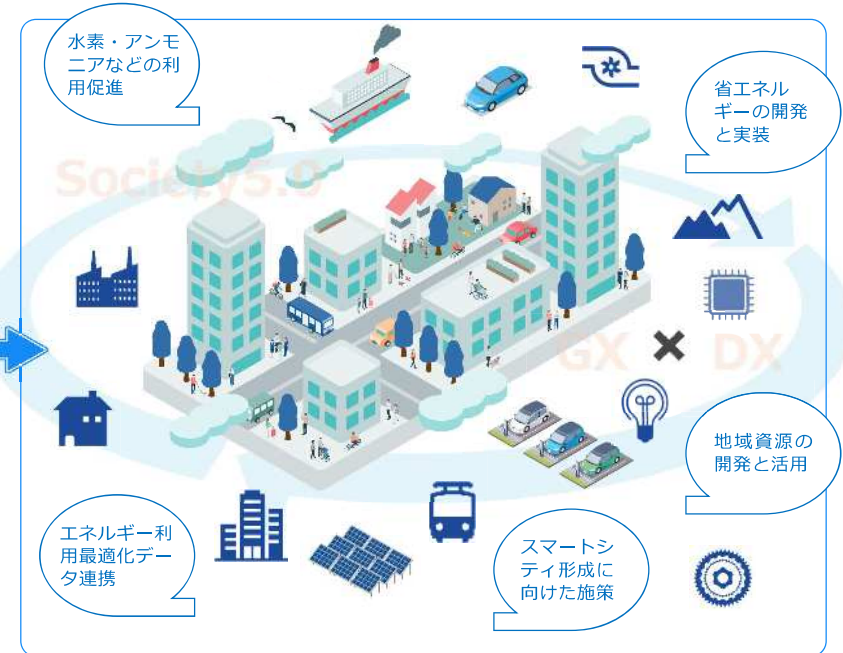
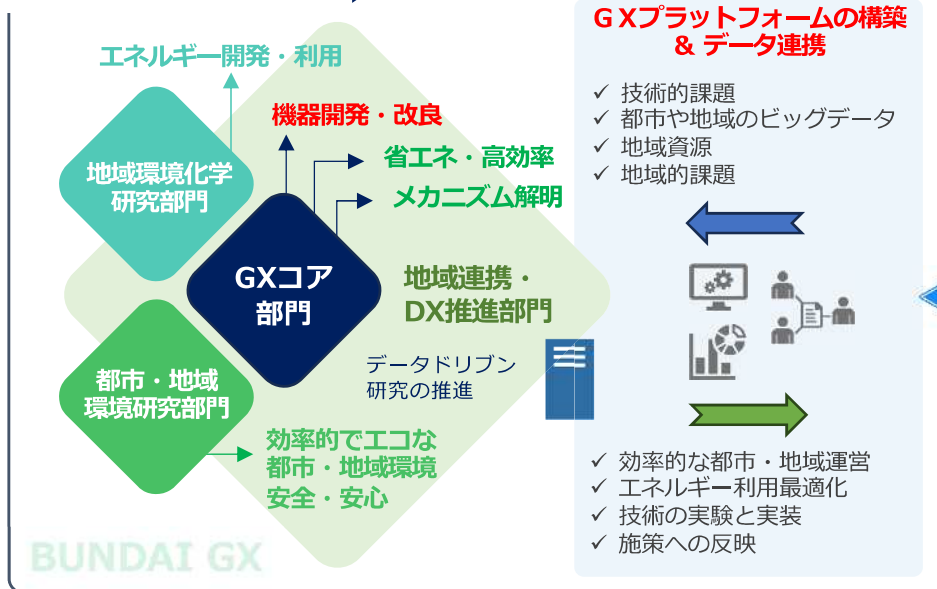
次なる改革に向けた学際的研究の推進

GX

DX

Society5.0

先端技術・GX研究センター



技術の社会実装だけでなく、施策への反映を実現

カーボンニュートラルの実現と改良，省エネルギーでクリーンな社会へ



持続可能な社会への貢献とそのための人材養成

■ 事業名, 事業期間

令和6年度概算要求「教育研究組織改革」令和6～10年度（5年間）  
 「GX社会実装に向けた先端技術・GX研究センターの機能強化と地域研究拠点形成」

事業概要

令和5年2月に「GX実現に向けた基本方針～今後10年を見据えたロードマップ～」が公開された。本学においても、既存の研究リソースを結集させ、GX実現に向けた体制と取り組みの強化（地域研究拠点化）が求められている。これまでの理工学部の取り組みを基礎として、カーボンニュートラル、省エネルギー、グリーン、新素材に関わる研究開発、分析、改良を進め、持続可能な地域社会形成と拠点化のための取り組みを推進する「理工学部先端技術・GX研究センター」（GXセンター）を設置し、4部門（①GXコア部門、②地域環境化学研究部門、③都市・地域環境研究部門、④地域連携・DX推進部門で構成）の研究を重点研究として位置付け、学内外との連携と拠点形成を進める。拠点形成においては、大分県・大分県産業科学技術センターなどとの連携も図り、イノベーション創出に向けた実証的研究、実証実験、GX実装化を産官学連携のもと進める。これにより、機器開発、研究開発にとどまらず、社会の有り様を示す地域政策提言にまでにつなげる「地（知）の拠点」としての機能強化をさらに進め、大学改革にも寄与する。

体制

センター長 田上 公俊 教授（機械工学プログラム）  
 副センター長 衣本 太郎 教授（生命・物質化学プログラム）  
 副センター長 大森 雅登 准教授（電気エネルギー・電子工学プログラム）

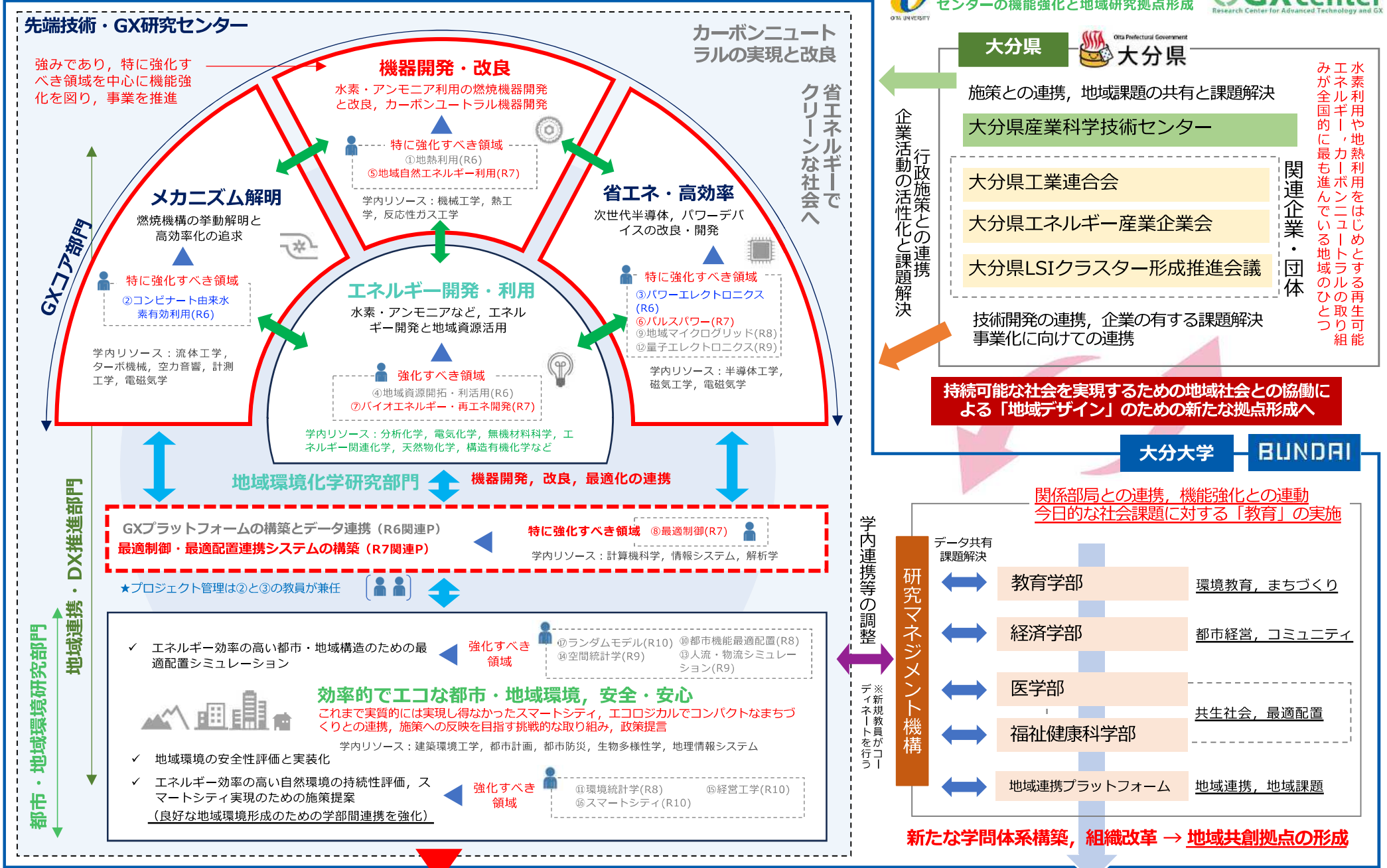


～4部門で構成～

- ① GXコア部門
- ② 地域環境化学研究部門
- ③ 都市・地域環境研究部門
- ④ 地域連携・DX推進部門

技術開発から社会実装へ、  
 そしてスマートシティ、  
 Society5.0の具現化へ





持続可能な社会の姿を描き, 共有し, 構築する → 都市や地域の課題と対応, スマートシティ, Society5.0の実現へ



お知らせ Information

[お知らせ一覧](#) →

お問い合わせ Contact

2024年11月1日	<a href="#">お知らせ</a>	【2月5日開催】BUNDAI GXセミナー2024の第4回を開催します
2024年11月1日	<a href="#">お知らせ</a>	【1月30日開催】BUNDAI GXセミナー2024の第3回を開催します
2024年11月1日	<a href="#">お知らせ</a>	【12月10日開催】BUNDAI GXセミナー2024の第2回を開催します
2024年11月1日	<a href="#">お知らせ</a>	【11月26日開催】BUNDAI GXセミナー2024の第1回を開催します
2024年10月9日	<a href="#">お知らせ</a>	第1回先端技術・GX研究センター運営委員会を開催しました



大分大学 理工学部 先端技術・GX  
研究センター

〒870-1192 大分県大分市大字旦  
野原700番地

TEL : 097-554-7822

MAIL : bundai-gx@oita-u.ac.jp

